

長崎市新火葬場整備基本構想

令和4年9月

市民生活部

目 次

1	基本構想策定の目的	1
2	長崎市もみじ谷葬斎場の現状等	2
(1)	施設等の概要	2
(2)	建物及び設備等の現状と主な課題	5
ア	建物	5
イ	火葬機能	5
ウ	待合機能	7
エ	管理機能	8
オ	駐車機能	9
カ	動線	10
(3)	火葬の現状と将来推計	11
ア	火葬の現状	11
イ	将来人口の推計	12
ウ	死亡者数の推計	13
エ	年間の火葬需要の推計	14
3	施設整備にあたっての基本的な考え方	16
(1)	新火葬場のめざす姿	16
(2)	施設整備の基本方針	16
(3)	必要な機能	17
ア	火葬機能	17
イ	待合機能	18
ウ	管理機能	18
エ	駐車機能	18
オ	動線	18
(4)	建替え時期と場所の考え方	19
ア	建替え時期	19
イ	建替え場所	20
4	参考資料	21
(1)	新火葬場の整備に関する火葬場整備計画審議会における主な意見	21
(2)	市政モニターアンケート調査結果（令和2年度実施・令和3年3月10日公表）	24

1 基本構想策定の目的

火葬場は、市民生活の維持に必要不可欠な施設であることから、災害等が発生した場合においても休止等することなく、絶えず安定的に稼働することが求められています。

長崎市では、大正 10 年 4 月に初めて市営火葬場を設置し、その後、敷地の拡張や火葬炉の増設、原爆被害からの復旧等を経て、昭和 53 年 12 月に現在の長崎市もみじ谷葬斎場を全面建替えにより整備し、長崎市民のほか、長崎広域連携中枢都市圏連携協約に基づき長与町・時津町の住民も対象として火葬事業を実施しています。

そのような中、もみじ谷葬斎場は、今年 12 月には全面建替えから 44 年を迎え、施設の目標使用年数まで残り 21 年となりますが、施設の老朽化に加え、待合機能等に関して遺族等の心情等に十分に配慮できていないことなどの様々な課題を抱えており、今後、火葬需要の増加が見込まれる中においては、それらがより深刻になっていくことが予想されます。

このようなことから、本基本構想は、もみじ谷葬斎場の現状を踏まえて課題を整理したうえで、現在の施設が抱える様々な課題等の解消を図るため、有識者や市民等で構成する長崎市火葬場整備計画審議会からの意見なども踏まえて、新火葬場を整備するうえでの施設整備の基本方針や必要な機能、建設場所の選定等に係る考え方などの基本的な考え方を示すものとして策定するものです。

2 長崎市もみじ谷葬斎場の現状等

(1) 施設等の概要

所在地	長崎市淵町 26 番 6 号
主な経緯	大正 10 年 4 月 市営火葬場として設置 昭和 53 年 12 月 全面建替え（工事開始 昭和 52 年 1 月） 昭和 56 年 4 月 「長崎市もみじ谷葬斎場」と改称 平成 18 年度 施設の一部改修（待合室増設、駐車場整備等） 平成 20 年度 耐震補強工事
土地	4,163.76 m ² （地目：宅地）
建物	鉄筋コンクリート造平屋建（一部 2 階建） 建築面積 762.79 m ² 延床面積 1,318.39 m ²
建設費総額	428,245 千円（昭和 53 年全面建替え時）
火葬炉	普通炉 10 基、大型炉（予備炉）1 基、小型炉 1 基 ※普通炉・大型炉は台車式 使用燃料：白灯油
諸室等	告別室兼玄関ホール 炉前ホール 待合室 8 室（うち 3 室は間仕切って 6 室とし、計 11 室として使用）※総収容人数 280 人（各室の収容人数 15～36 人） 拾骨室 1 室（間仕切って 2 室として使用） 更衣室兼授乳室 事務室 倉庫
駐車場	バス 4 台 普通車 96 台 身体障害者用 1 台

図1 位置図

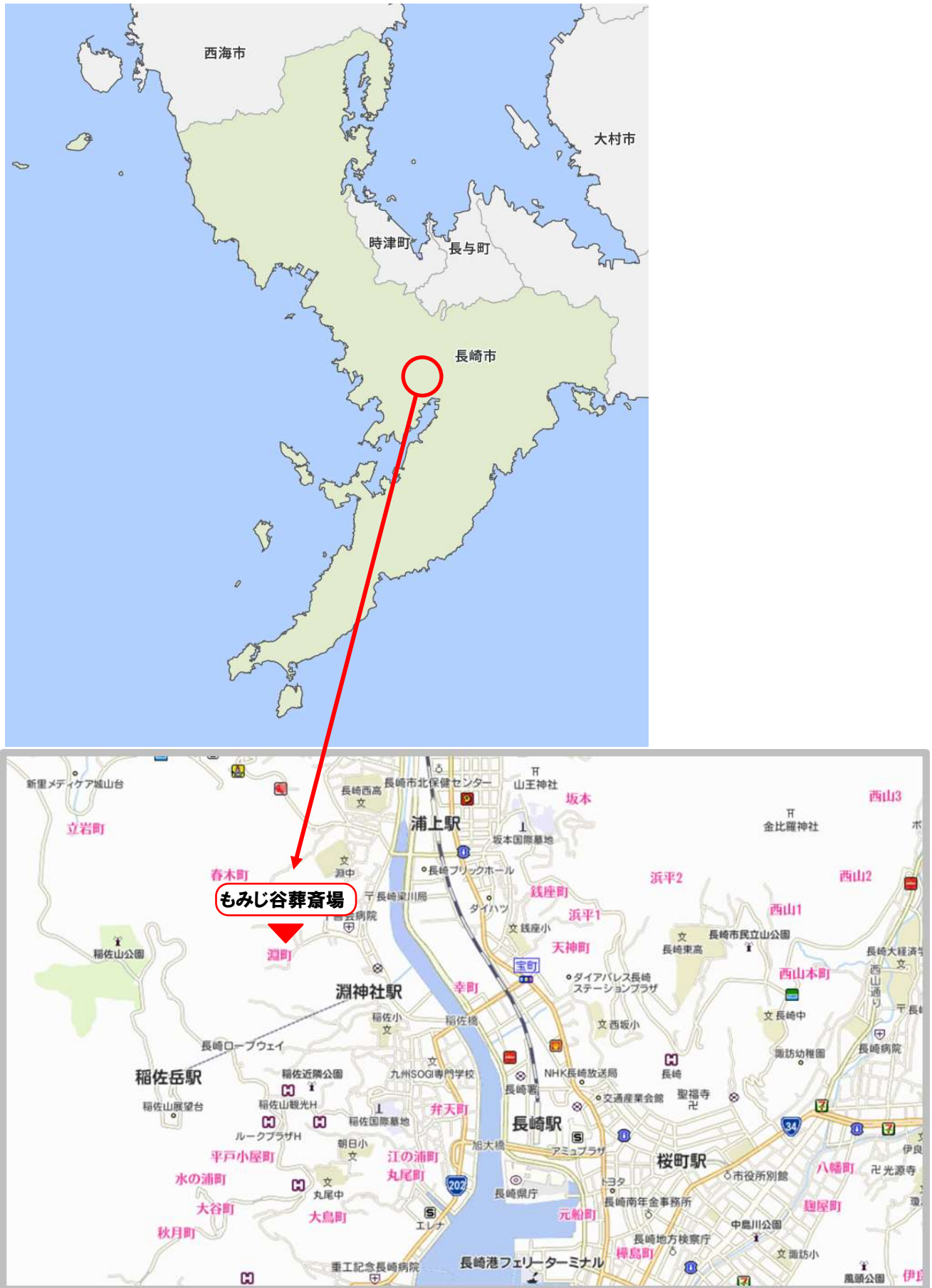
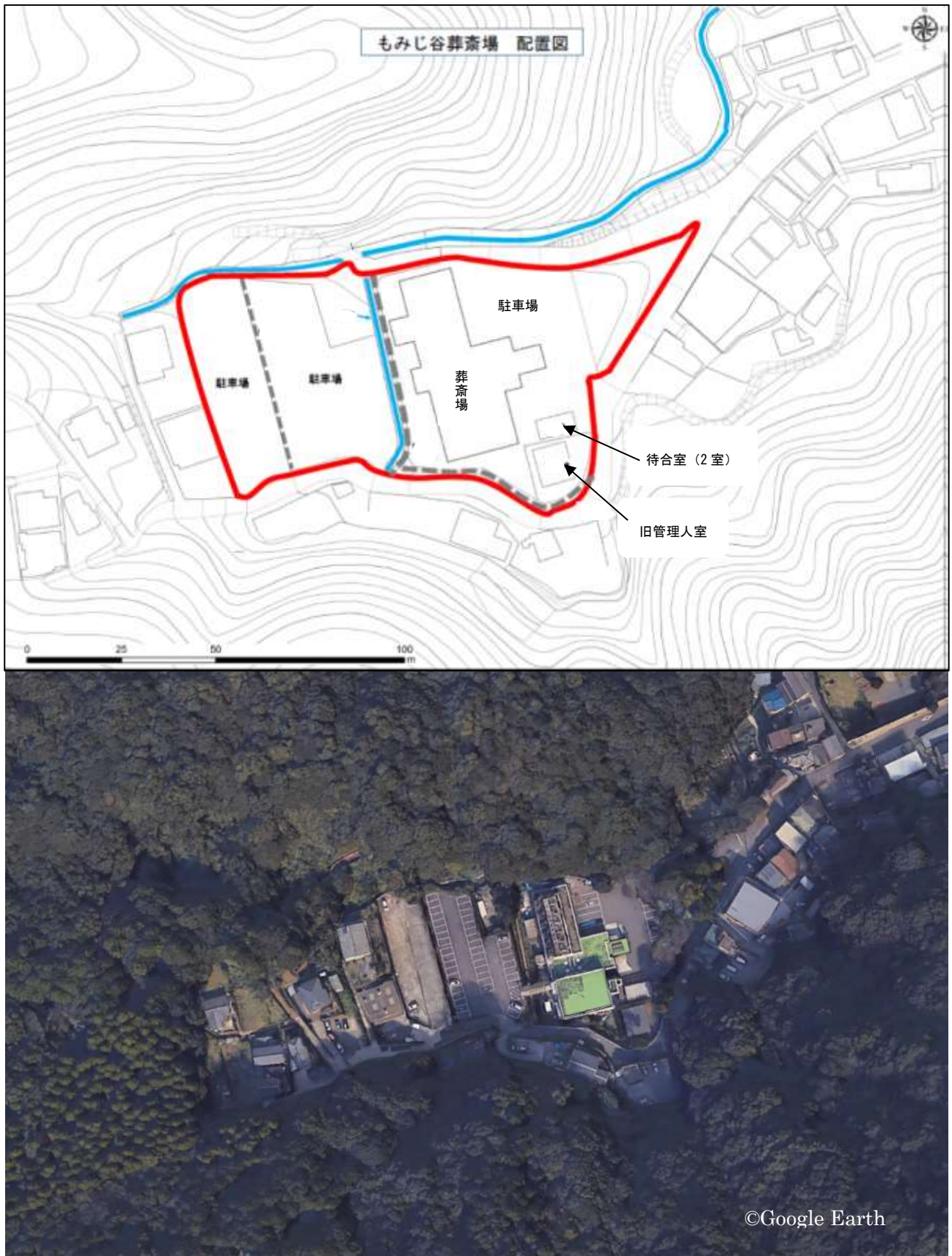


図2 配置図



(2) 建物及び設備等の現状と主な課題

ア 建物

現在のもみじ谷葬斎場は、昭和 53 年 12 月の全面建替えからこれまでの間、利用者の利便性向上や施設の安定的な運営等のため、平成 18 年度には待合室の改修や増設を行うとともに、平成 20 年度には耐震補強工事を実施するなどしてきたところであり、現時点で建物の使用そのものには支障等はありません。

しかしながら、全面建替えから 40 年以上が経過していることから、今後のさらなる老朽化の進行に伴い、建物の補修頻度や維持管理費の増加等が懸念されるとともに、施設が全体的に狭隘であることから、火葬件数が増加傾向にある中では、告別室や待合室等の諸室の不足も懸念されます。

<正面玄関>



イ 火葬機能

もみじ谷葬斎場には、普通炉 10 基、大型炉（予備炉）1 基、小型炉 1 基の合計 12 基の火葬炉とともに、そのほかの火葬設備として電気集塵装置等があり、また火葬設備以外の火葬機能として、故人とのお別れをするための告別室や火葬後に遺骨を骨壺に納めるための拾骨室などがあります。

これら火葬炉などの火葬設備については、概ね 5 年ごとに計画的な改修を実施しており、現時点で火葬業務に支障は生じていませんが、これらの火葬設備は旧型であるため、今後のメンテナンスに必要な交換部品等の確保が危惧されます。

また、現在の火葬炉は、前室（冷却室）設置が常設となる以前の設備であるため同室がなく、棺の入炉時に遺族等から炉（燃焼室）内部が直視できる構造となっており、遺族等の心情等に十分配慮できていないものとなっているとともに、炉内での常温から高温までの温度の急激な上昇や下降の繰り返しにより、炉内の耐火材の損耗等にも影響があるものとなっています。

さらに、告別室については、玄関ホールを使用（兼用）する配置となっており、告別のための専用スペースがなく、また、拾骨室についても1室しかなく、簡易的なパーティションで間仕切って2室として使用していることから、複数の遺族等が同時に拾骨する際には、他の遺族等の会話が聞こえるなど、遺族等の心情等に十分に配慮できていないものとなっています。

< 炉前ホール >



< 火葬炉 >（前室（冷却室）が未設置のため炉内部が直視できる構造）



< 告別室（玄関ホール兼用） >



<拾骨室> (パーテーションで間仕切って使用)



ウ 待合機能

もみじ谷葬斎場には、収容人数の異なる待合室を8室設けていますが、待合室不足を解消するため、8室の待合室のうち3室を簡易的なパーテーションで間仕切って2つに区分し、合計11室の待合室として使用しています。

しかしながら、簡易的な間仕切りであることから、複数の遺族等が同時にその部屋を使用する際には、他の遺族等の会話が聞こえるなど、遺族等の心情等に十分に配慮できていないものとなっています。

また、11室の待合室のうち3室は畳敷きの待合室となっており、身体障害者や高齢者の方などには利用しにくいものとなっているなど、あらゆる方々の利用を想定した待合機能となっていません。

さらに、現在の施設には待合室の収容人数を超える人数の遺族等が来場した場合に対応可能な待合室や待合ホール等の待機場所がなく、また、現在は多くの施設で導入されているインターネット環境や、専用の更衣室、授乳室、キッズルームもないなど、待合機能が十分なものとなっていません。

<待合室> (中央のパーテーションで間仕切り2部屋として使用)



<ロビー> (館内の通路を兼ねるため椅子等を設置するスペースの確保が困難)



エ 管理機能

もみじ谷葬斎場では、来場者に対応するための窓口や事務室、各種書類や物品等を保管するスペース、火葬の際に必要な台車の収納場所など、施設を運営するうえで必要なスペースの確保が必要となりますが、建物が狭隘であるため、事務室や倉庫等の管理上必要なスペースが十分に確保できていません。

<事務室前> (事務室内に設置できない保管庫をロビーに設置)



<玄関ホール> (収納場所がない台車を玄関ホールで保管)



オ 駐車機能

火葬場への遺族等の来場方法は、その多くが自家用車や葬祭事業者が手配するバス等の利用となっている中、現在のもみじ谷葬斎場では、普通車とバスを合わせて101台（身体障害者専用駐車場1台を含む）分の駐車場を確保しており、これまでの運営において支障等は生じておらず充足しているものと考えられますが、今後とも遺族等の来場状況に応じた駐車機能の維持が必要です。

< 駐車場 > (正面玄関前)

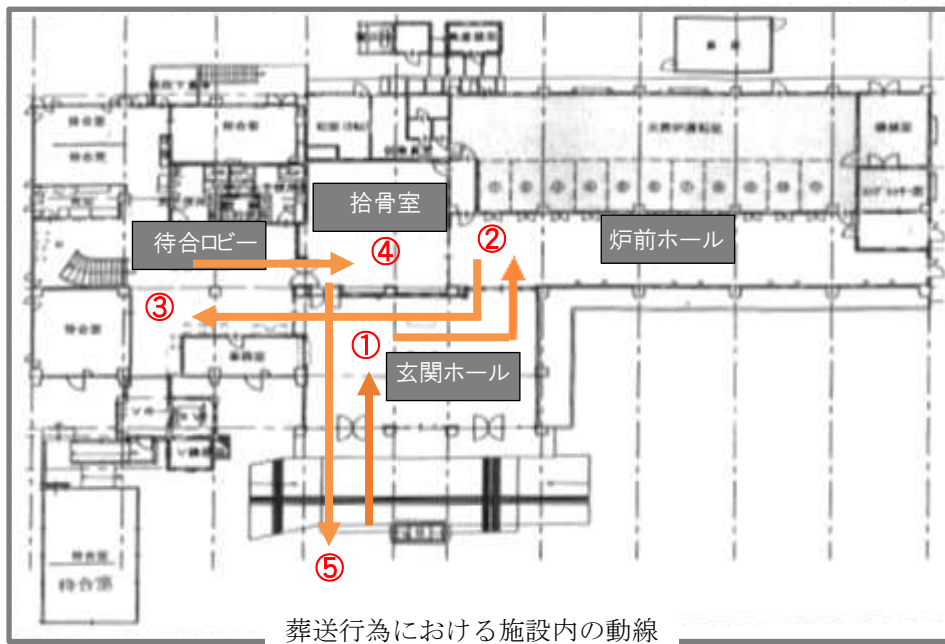


(建物裏)



カ 動線

もみじ谷葬斎場における諸室の配置は、火葬炉前のホールから待合室への移動の際に玄関ホール（告別室）を経由する動線（諸室の配置）となっているなど、火葬に伴う遺族等の一連の動線が玄関ホール（告別室）付近で交錯するものとなっており、そのため、玄関ホールで告別を行われている遺族等と、告別後に火葬炉前のホールから待合室に移動する遺族等や、拾骨後に玄関ホールへ向かわれる遺族等が玄関ホール付近で混雑するなど、遺族等に十分な配慮ができていません。



(3) 火葬の現状と将来推計

ア 火葬の現状

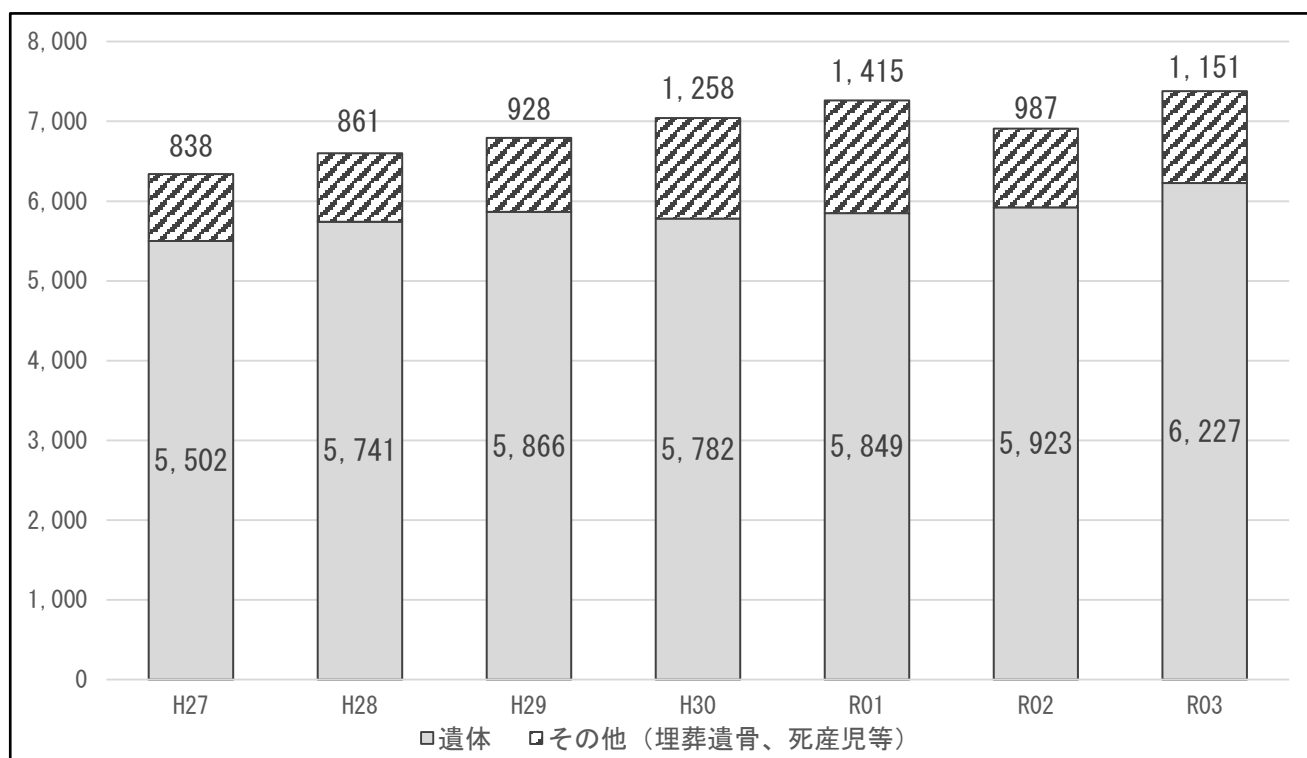
もみじ谷葬斎場における平成27年度から令和3年度までの火葬件数の推移については、表1及び図3のとおりとなっています。

1年あたりの遺体火葬件数は6,000体前後で、近年は高齢化の進展等により増加傾向にあり、令和3年度においては平成以降で最多となる6,227件となり、1日あたりに換算すると約17.1件、1日における火葬の最大件数は30件となっています。

表1 もみじ谷葬斎場における年度ごとの火葬件数（単位：体、個）

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
遺体(12歳以上)	5,487	5,725	5,850	5,775	5,837	5,912	6,213
遺体(12歳未満)	15	16	16	7	12	11	14
遺体(合計)	5,502	5,741	5,866	5,782	5,849	5,923	6,227
埋葬遺骨	422	512	545	918	1,105	702	907
死産児	93	92	104	62	76	72	38
肢体等	115	65	99	112	74	52	54
産汚物	208	192	180	166	160	161	152
その他(合計)	838	861	928	1,258	1,415	987	1,151
合計	6,340	6,602	6,794	7,040	7,264	6,910	7,378

図3 もみじ谷葬斎場における年度ごとの火葬件数（単位：件）



イ 将来人口の推計

火葬需要の将来推計にあたっては、将来人口から死亡者数を推計する必要がありますが、将来人口については、その一つとして国立社会保障・人口問題研究所が公表している「将来の地域別男女5歳階級別人口」があり、平成30年（2018年）3月30日公表資料では表2に示す将来人口推計のとおりとなっています。将来人口は、今後、長崎市、長与町、時津町のいずれも減少していくことが見込まれています。

表2 長崎市・長与町・時津町の将来人口推計（単位：人）

地域	総人口（人）					
	令和2年 （2020年）	令和7年 （2025年）	令和12年 （2030年）	令和17年 （2035年）	令和22年 （2040年）	令和27年 （2045年）
長崎市	413,353	394,707	375,074	354,735	333,230	311,082
長与町	42,111	41,246	40,040	38,476	36,648	34,593
時津町	29,146	28,256	27,068	25,685	24,180	22,607
合計	484,610	464,209	442,182	418,896	394,058	368,282

ウ 死亡者数の推計

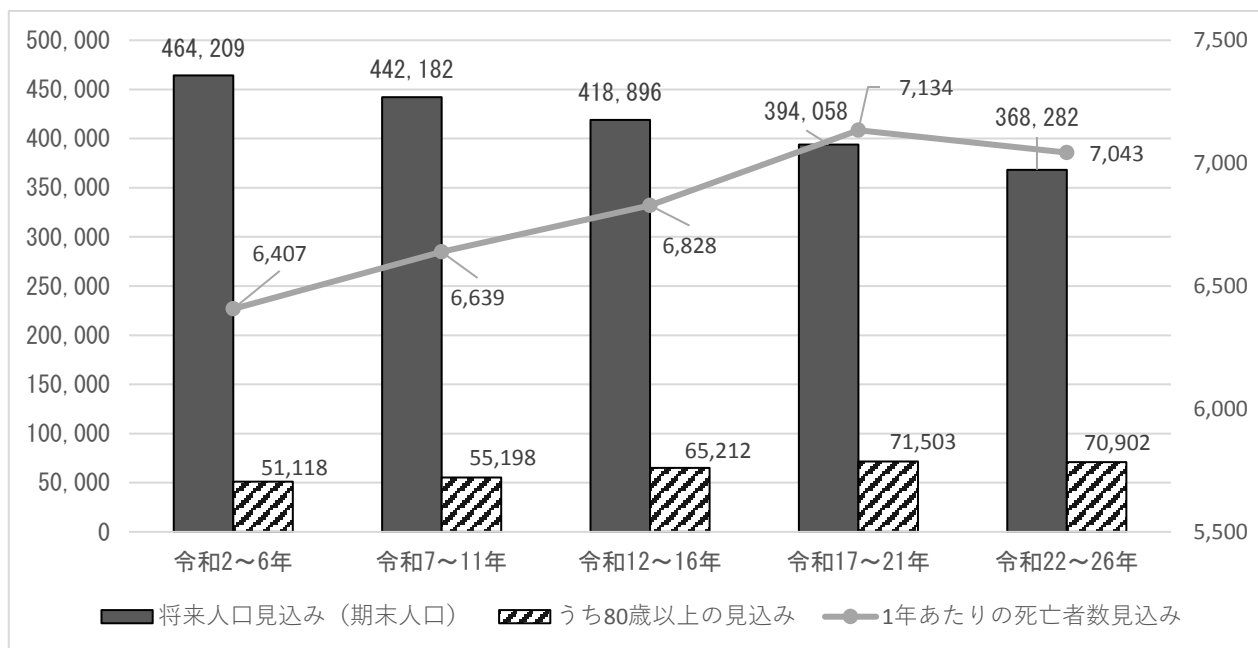
死亡者数の推計は、将来人口に基づき、同研究所から報告されている「将来の生残率」（平成30年（2018年）3月30日公表資料）を用いて推計すると、表3に示す死亡者数の推計及び図4のとおりとなります。

人口は今後減少していくことが見込まれますが、高齢化の進展等によって、令和17～21年（2035～2039年）までは死亡者数は増加し続け、その後は緩やかに減少していくことが見込まれます。

表3 死亡者数の推計（単位：人）

年	1市2町の期末人口見込み		死亡者数見込み	
		うち80歳以上の見込み	5年間の総数 ①	1年あたりの数 ① ÷ 5
令和2～6年 (2020～2024年)	464,209	51,118	32,036	6,407
令和7～11年 (2025～2029年)	442,182	55,198	33,194	6,639
令和12～16年 (2030～2034年)	418,896	65,212	34,141	6,828
令和17～21年 (2035～2039年)	394,058	71,503	35,668	7,134
令和22～26年 (2040～2044年)	368,282	70,902	35,215	7,043

図4 将来人口及び死亡者数の推計（単位：人）



エ 年間の火葬需要の推計

表3のとおり、死亡者数見込み（＝火葬見込件数）のピークを迎えると予想される令和17～21年（2035～2039年）における1年あたりの火葬見込件数は7,134件と推計されます。

これをもみじ谷葬斎場の1年間の稼働日数364日（元日は休場日）で除算すると、1日あたりの火葬件数は約19.6件となります。これは、令和3年度の実績である約17.1件と比較すると、約2.5件（14.6%）の増となります。

また、1年間及び1日あたりの平均の火葬件数の見込みは、前述のとおりとなりますが、実際には1日あたりの火葬件数は日によって変動し、休場日明けなど火葬が集中する日を考慮する必要があることから、過去の実績に基づき火葬の集中日における火葬件数を算出すると、1日あたり28.8件となります。

なお、この件数を1基の火葬炉が1日に稼働できる回数（3回）で除算すると、火葬炉数は10基（現在と同数）と見込まれます。

(ア) ピーク時（令和17～21年（2035～2039年））の1年あたりの火葬件数

$$\begin{aligned} \text{計算式：ピーク時の5年間の死亡者数見込み} &\div 5\text{年} \\ 35,668\text{件} &\div 5\text{年} \quad \rightleftharpoons \quad 7,134\text{件} \end{aligned}$$

(イ) ピーク時（令和17～21年（2035～2039年））の1日あたりの火葬件数

$$\begin{aligned} \text{計算式：ピーク時の1年あたりの火葬件数} &\div \text{年間稼働日数} \\ 7,134\text{件} &\div 364\text{日} \quad \rightleftharpoons \quad 19.6\text{件} \end{aligned}$$

(ウ) 火葬集中日における火葬件数

$$\begin{aligned} \text{計算式：ピーク時の1日あたりの火葬件数} &\times \text{火葬集中係数（注1）} \\ 19.6\text{件} &\times 1.47 \quad \rightleftharpoons \quad 28.8\text{件} \end{aligned}$$

（注1）「火葬集中係数」は、1日あたりの平均火葬件数に対する火葬集中日における火葬件数の割合で、もみじ谷葬斎場における過去の実績を踏まえ算出したものです。

(エ) 火葬炉数見込み

計算式：火葬集中日火葬件数 ÷ 1基1日あたりの稼働回数（注2）

$$28.8 \text{ 件} \div 3.0 \text{ 回} = 9.6 \text{ 基} \simeq 10 \text{ 基}$$

（注2）「1基1日あたりの稼働回数」は、特定非営利活動法人日本環境斎苑協会発行の「火葬場の建設・維持管理マニュアル」や、現在のもみじ谷葬斎場における実績等を勘案したものです。

3 施設整備にあたっての基本的な考え方

もみじ谷葬斎場は、今年（令和4年（2022年））12月には、全面建替えから44年を迎え、長崎市公共施設保全計画において定める施設の目標使用年数である65年（令和25年（2043年）に該当）まで残り21年となりますが、現在の施設は、老朽化等に加え、遺族等が利用する告別室や拾骨室、待合室等が遺族等に十分配慮できていないことなどの様々な課題を抱えており、それらが今後、より深刻になっていくことが予想されることから、これらの課題等の早期解消のための建替えに向けた施設整備の基本的な考え方を次のとおりとします。

(1) 新火葬場のめざす姿

火葬場は、遺族等が故人との最後のお別れをする場所であることを踏まえ、遺族等が静かに安らかな気持ちで故人を見送ることができる施設とすることをめざし、次のとおりとします。

静穏な中で安らかに故人を見送れる施設

(2) 施設整備の基本方針

ア 静かで落ち着く空間を備えた施設

故人との最後のお別れの場所である火葬場は、遺族等が安らかな気持ちで故人を見送ることができるような静かなプライベート空間の確保等に配慮した施設とする必要があることから、火葬場における告別、拾骨などの葬送行為を遺族等が専有空間で行え、静謐な環境で過ごすことができる施設とします。

イ 機能的で誰にでもやさしく、安心して利用しやすい施設

火葬場は、身体障害者や高齢者、子供、外国人の方など様々な方々が利用する施設であることや市内で唯一かつ市民生活において必要不可欠な施設であることを踏まえ、全ての方が安心して利用しやすいものとなるようユニバーサルデザイン等に配慮するとともに、市内全域等からの交通アクセスの良さも考慮しつつ、自然災害等の発生時においても休止等が生じることなく安定的に稼働でき、新型コロナウイルス感染症等の感染症対策も考慮した施設とします。

ウ 景観と調和し、環境にやさしい施設

火葬場という施設の特特殊性を踏まえ、利用する遺族等や施設の周辺住民に受け入れられるものとなるよう敷地内の緑化など景観や環境に配慮するとともに、施設の稼働によって発生する排ガス（ばいじん、ダイオキシン類等）等の環境負荷を軽減できる火葬設備や、長崎市が目指しているゼロカーボンシティの実現（注 3）を踏まえた省エネルギー化や太陽光等の再生可能エネルギーの導入など、環境面に配慮した施設とします。

（注 3）長崎市においては、市民、事業者、行政が一丸となって環境行動を促進するとともに、地域の活性化につながる実効性のある取組みを加速させることにより、長崎市が環境面からも世界に貢献し、将来にわたり健やかに暮らすことのできるまちを持続させるため、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の実現を目指しています。

エ 効率的な運営ができる施設

新たに施設を整備するにあたっては、建設費用等として相当の費用が想定されるとともに、建設後の施設や火葬炉をはじめとする設備の維持管理費用も大きなものとなることが想定されるため、可能な限りそれらコスト面の縮減を考慮するとともに、将来的に見込まれる設備の改修等も想定した維持管理面の容易性や効率性も考慮した施設とします。

(3) 必要な機能

現在のもみじ谷葬斎場が抱える様々な課題等を解消するため、新たな火葬場の整備にあたっての必要な機能として、次のとおりとします。

ア 火葬機能

火葬炉については、将来の火葬需要に基づく必要な基数とするとともに、火葬炉の耐久性の向上や遺族等の心情等に配慮した前室（冷却室）の設置が必要であり、また、これらの火葬設備等は環境面に配慮したものとする必要があります。

また、告別室や拾骨室についても、遺族等が単独で使用できるものとするなど、遺族等の心情等に配慮したものとする必要があります。

イ 待合機能

待合室は、遺族等が単独で使用できるものとするなど、遺族等の心情等に配慮したものとするとともに、身体障害者や高齢者の方など施設に会場される誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン等に配慮したものとする必要があります。

また、待合室の収容人数を超える大人数の遺族等にも対応できるよう汎用性の高い待合室や待合ホール等を整備するとともに、インターネット（Wi-Fi）環境の整備や子供連れの遺族等に配慮したキッズルーム、授乳室等の設置など、遺族等の待合時における快適性等を考慮したものとする必要があります。

ウ 管理機能

施設利用者の利便性等や施設運営の効率性等を考慮した受付窓口や事務室、書類等の保管スペース、台車等の格納スペースなど、管理上必要なスペースがある事務室や倉庫等を整備する必要があります。

エ 駐車機能

遺族等の来場見込み数に応じた普通車やバス等の必要台数の駐車場を確保する必要があります。

オ 動線

火葬に伴う遺族等の一連の動線が他の遺族等と交錯しないような施設内の諸室の配置とする必要があります。

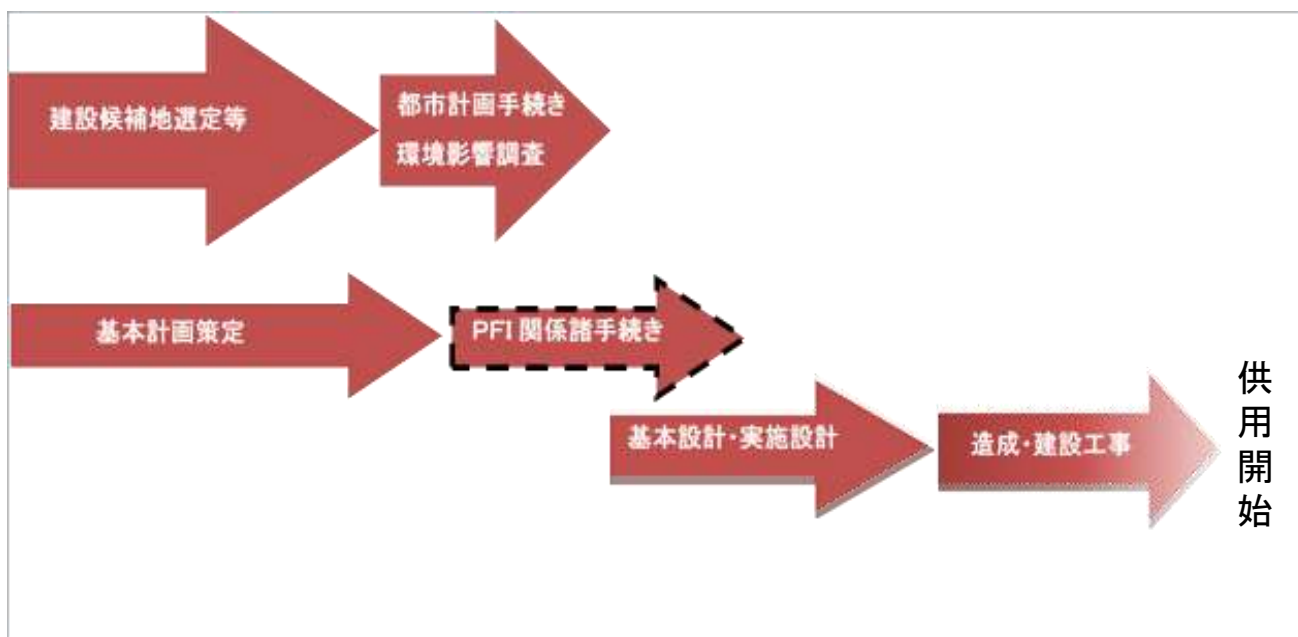
(4) 建替え時期と場所の考え方

ア 建替え時期

現在のもみじ谷葬斎場は、令和4年（2022年）12月には、全面建替えから44年を迎え、「長崎市公共施設保全計画」における耐震性能が確保できる既存施設の目標使用年数である65年（令和25年（2043年）が該当）まで残り21年となります。

しかしながら、遺族等が単独で利用できる告別室や拾骨室がなく、また単独で利用できる待合室も少ないことに加え、一連の葬送行為に伴う遺族等の動線が交錯する諸室の配置となっているなどの様々な課題を抱えており、これらの課題は火葬件数のピークと見込まれる令和17～21年（2035～2039年）に向かって、より深刻になっていくことが予想されることから、建替え時期については、施設の目標使用年数を待たず、遅くとも火葬件数のピークと見込まれる令和17年度（2035年）までには供用開始できるよう検討を進めることとします。

図5 建替えに向けての想定スケジュール



イ 建替え場所

火葬場は、「長崎市公共施設の適正配置基準（案）」に基づき、市内1か所の配置を前提としており、建替え場所の選定にあたっては、次の視点を踏まえ候補地を選定するとともに、周辺住民等の理解も得て決定していくこととします。

- ・新火葬場に必要な機能と望ましい環境が確保できる敷地規模を有する土地
- ・火葬場設置に係る関係法令との関係性（土砂災害防止法等）
- ・長与町、時津町を包含する市内全域からの交通アクセスの良さ
- ・周辺環境（景観、静けさ、住宅の立地状況等）
- ・造成等の必要性やインフラ施設の整備状況
- ・敷地整備等に要する概算費用

長崎市公共施設の適正配置基準（案）（抜粋）

現在の火葬場の施設規模（火葬炉数）で、当分の間、火葬件数の需要を賄うことができることから、現在の市内1か所の配置を維持します。

また、広大な敷地や大規模な床面積を要する施設で都心部及び都心周辺部への配置が困難な場合、例外として機能確保を優先して配置します。

4 参考資料

(1) 新火葬場の整備に関する火葬場整備計画審議会における主な意見

これまでに開催した長崎市火葬場整備計画審議会において、新火葬場の整備に関して出された主な意見は次のとおりとなっています。

火葬機能

- ・火葬設備の燃料として白灯油を使用しているが、環境にあまりよくない感じがする。
- ・遺族等の心情に配慮し、遺族等に火葬炉内が見えないように前室（冷却室）が必要である。
- ・遺族等のプライバシーに配慮した告別室や拾骨室が必要である。
- ・玄関ホールと告別室との共用は問題がある。

待合機能

- ・遺族等のプライバシーに配慮した待合室が必要である。
- ・待合室ごとに雰囲気や使い勝手に差があり、分散していることで不要な移動が多くなる。
- ・誰もが支障なく利用可能な施設とするため、ユニバーサルデザインやバリアフリーへの配慮が必要である。
- ・身障者用の広い入口がある多目的トイレをもう1つほしい。
- ・子供連れの遺族等のため、授乳室やキッズスペース等の設置が必要である。
- ・更衣室は鍵付きであった方が良く、また、カーテンのみで見栄えが良くない。
- ・スマートフォン等への施設からの必要な情報提供も可能とするため、インターネット環境の整備の検討が必要である。

管理機能

- ・管理運営に支障を来さない適正な事務スペースの確保等が必要である。
- ・火葬業務は心労等がかかる仕事であり、職員が穏やかな気持ちで従事できるような環境の整備が必要である。

動線

- ・他の遺族等と交錯しない動線の確保が必要である。
- ・わかりやすい動線確保のため、諸室の配置やサイン・標識の整備等が必要である。

景観・環境

- ・お別れの間としての雰囲気づくりのため、風景、静けさ、外装・エクステリアの検討が必要である。
- ・遺族等に落ち着きと安らぎを感じさせる内装の検討が必要である。
- ・遺族等や地域住民に受け入れられるような景観への配慮が必要である。
- ・火葬設備の燃料として白灯油を使用しているが、環境にあまりよくない感じがする。

(再掲)

- ・長崎市が目指すゼロカーボンの方向性を踏まえた施設整備が必要である。
- ・環境に配慮するため、建設時の再生建材等の利用も考慮する必要がある。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）に代表される「環境配慮」は時代のニーズである。

財政・運営

- ・公共施設が多く建設されており、財政面も考慮する必要がある。
- ・財政面への影響を勘案し、建設費等を抑えることが必要である。
- ・建替えに伴う火葬場使用料への影響（上昇）に対する検討が必要である。
- ・管理運営のしやすさも重要である。
- ・華美な施設は必要ない。
- ・華美でも質素でもなく、火葬場として稼働するために必要な機能を有した施設であることが必要である。

その他

- ・公共施設として安定的に稼働するため、自然災害発生時にも対応可能な施設であることが必要である。
- ・遺族等の心情に配慮した施設にしてほしい。
- ・大切な人を失くした気持ちから立ち直るきっかけをもらえるような施設にしてほしい。
- ・平和を発信する立場である長崎市らしさも含め、建物が有するシンボリック性（象徴性）の検討も必要である。

- ・遺族等に配慮したホスピタリティ（おもてなし）の充実が必要である。
- ・車での来場者のために施設までのわかりやすい案内表示が必要である。
- ・感染症対策として蛇口を非接触型にすべきである。また、遺族等の心情に配慮し、コロナ禍など様々な状況下においても最後のお別れができるような施設である必要がある。
- ・火葬場は粛々と火葬を執り行う所であり、それを静かな落ち着いた雰囲気で行える施設である必要がある。

(2) 市政モニターアンケート調査結果（令和2年度実施・令和3年3月10日公表）

【もみじ谷葬斎場建替え計画について】

1. 調査の目的

長崎市において唯一の火葬場である「長崎市もみじ谷葬斎場」は、昭和53年12月の全面建替えから40年以上を経過しており、今後の建替えに向けて検討しているところです。少子高齢化の進展もあり、葬儀・供養等の形態が多様化して来ているなか、新しい火葬場に対する市民のニーズを把握するために調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和2年12月7日 ～ 令和2年12月21日

送付数：229人（郵送モニター 182人 インターネットモニター 47人）

回答率：78.6%（180人）（郵送回答 166人 インターネット回答 14人）

3. 調査結果

今回の調査では、過去3年間にもみじ谷葬斎場を利用したことがあるかたに利用されて感じたことをお尋ねした結果、現在のもみじ谷葬斎場が建設から40年以上経過していることから、「施設の古さ・老朽化」を感じる方が多いであろうと予想していましたが、今回の調査結果では、それ以外に「待合室など施設の狭隘さ」を感じている方が約63%もいることがわかりました。

また、火葬場に求めるものとしては、「お別れの場にふさわしい静けさ」や「施設の個室化」を望む声がいずれも半数以上あったことから、故人との最後のお別れを静かに、心安らかに過ごしたいと考えているかたが多いことがわかりました。

このことから、新しい火葬場については、プライバシーに配慮した施設となるよう検討していく必要性を感じました。

火葬場の立地（建設場所）については、最も重要視する点を「市街地からの距離」、「葬儀場からの距離」、「交通機関の利便性」といった火葬場への移動（火葬場からの移動）の利便性を望むものが合計で約80%もありました。

今後、もみじ谷葬斎場の建替えについては、今回の調査結果に加え、いろいろな意見をいただきながら検討を進めていきたいと思えます。

4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

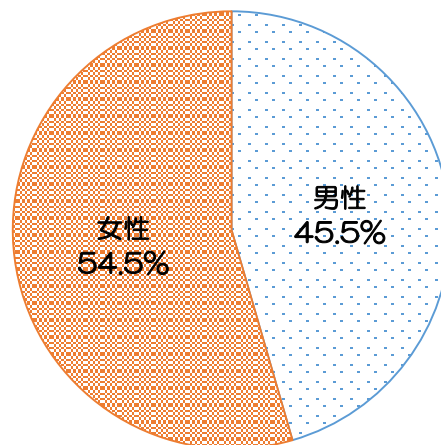
また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

問 1 あなたの性別をお答えください。

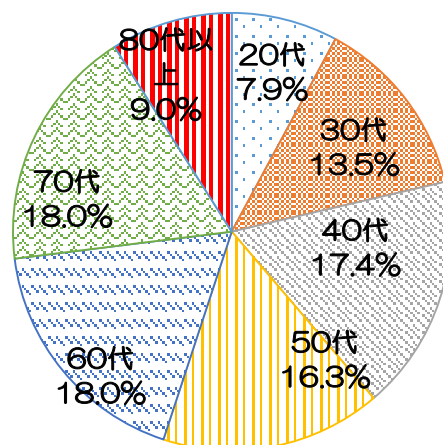
選択肢	回答者数	割合
男性	81 人	45.5%
女性	97 人	54.5%
合計	178 人	100.0%

(無回答：2 人)



問2 あなたの年齢を選択してください。

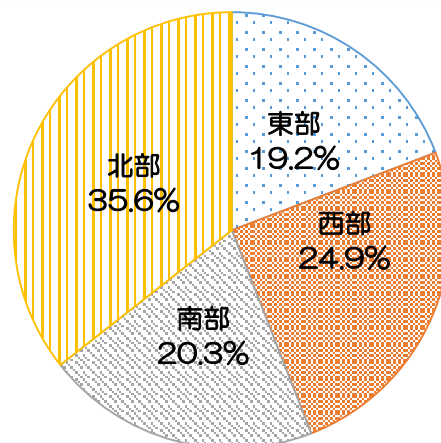
選択肢	回答者数	割合
20代	14人	7.9%
30代	24人	13.5%
40代	31人	17.4%
50代	29人	16.3%
60代	32人	18.0%
70代	32人	18.0%
80代以上	16人	9.0%
合計	178人	100.0%



(無回答：2人)

問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	34人	19.2%
西部	44人	24.9%
南部	36人	20.3%
北部	63人	35.6%
合計	177人	100.0%

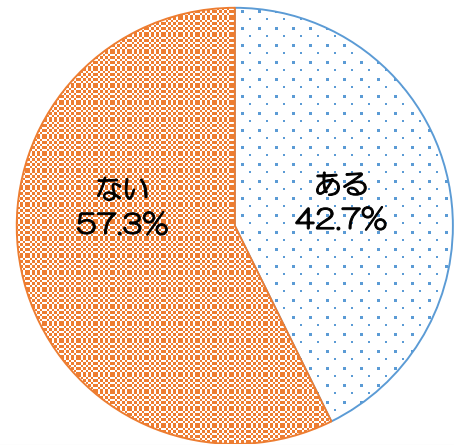


(無回答：2人、無効回答：1人)

※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問4 過去3年間にもみじ谷葬斎場を利用したこと（来たこと）がありますか。

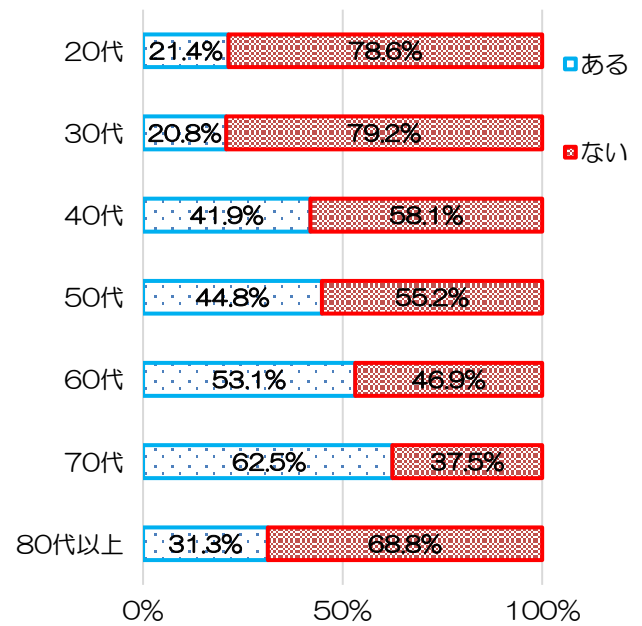
選択肢	回答者数	割合
ある	76人	42.7%
ない	102人	57.3%
合計	178人	100.0%



(無回答：2人)

〈年代別〉

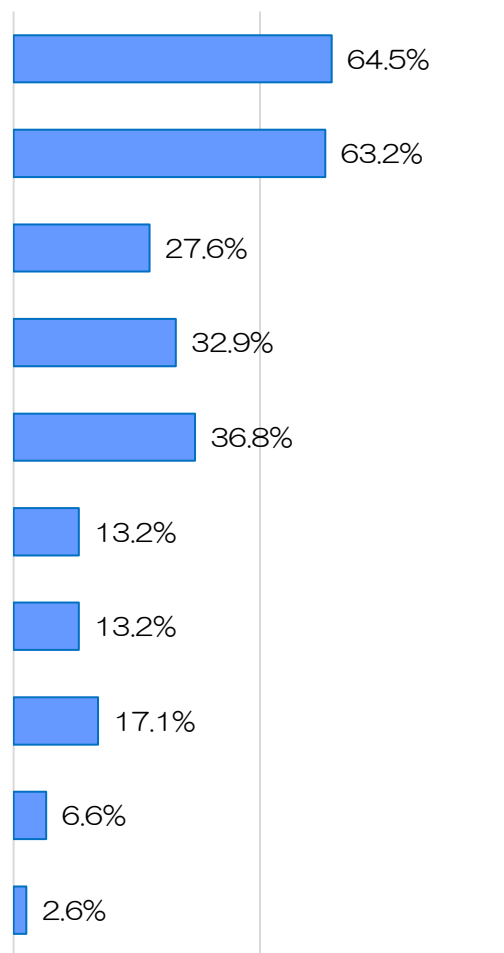
	ある	ない	合計
20代	3人	11人	14人
30代	5人	19人	24人
40代	13人	18人	31人
50代	13人	16人	29人
60代	17人	15人	32人
70代	20人	12人	32人
80代以上	5人	11人	16人
合計	76人	102人	178人



過去3年間にもみじ谷葬斎場を42.7%のかたが利用されていることが分かりました。また、若い世代ほど利用する機会が少なく、60代、70代は半数以上のかたが利用されていることが分かりました。

問5 問4で「1. ある」と答えた方におたずねします。利用されて（来られて）感じたことは何でしたか。（複数回答可）

選択肢	回答者数	割合
施設が古い・老朽化している	49人	64.5%
待合室等が狭い	48人	63.2%
プライバシーが保持できない	21人	27.6%
故人との最後のお別れの間としての雰囲気欠けている	25人	32.9%
駐車場が離れており不便である	28人	36.8%
臭気がある	10人	13.2%
騒々しい	10人	13.2%
問題なく利用できた	13人	17.1%
その他	5人	6.6%
特になし	2人	2.6%



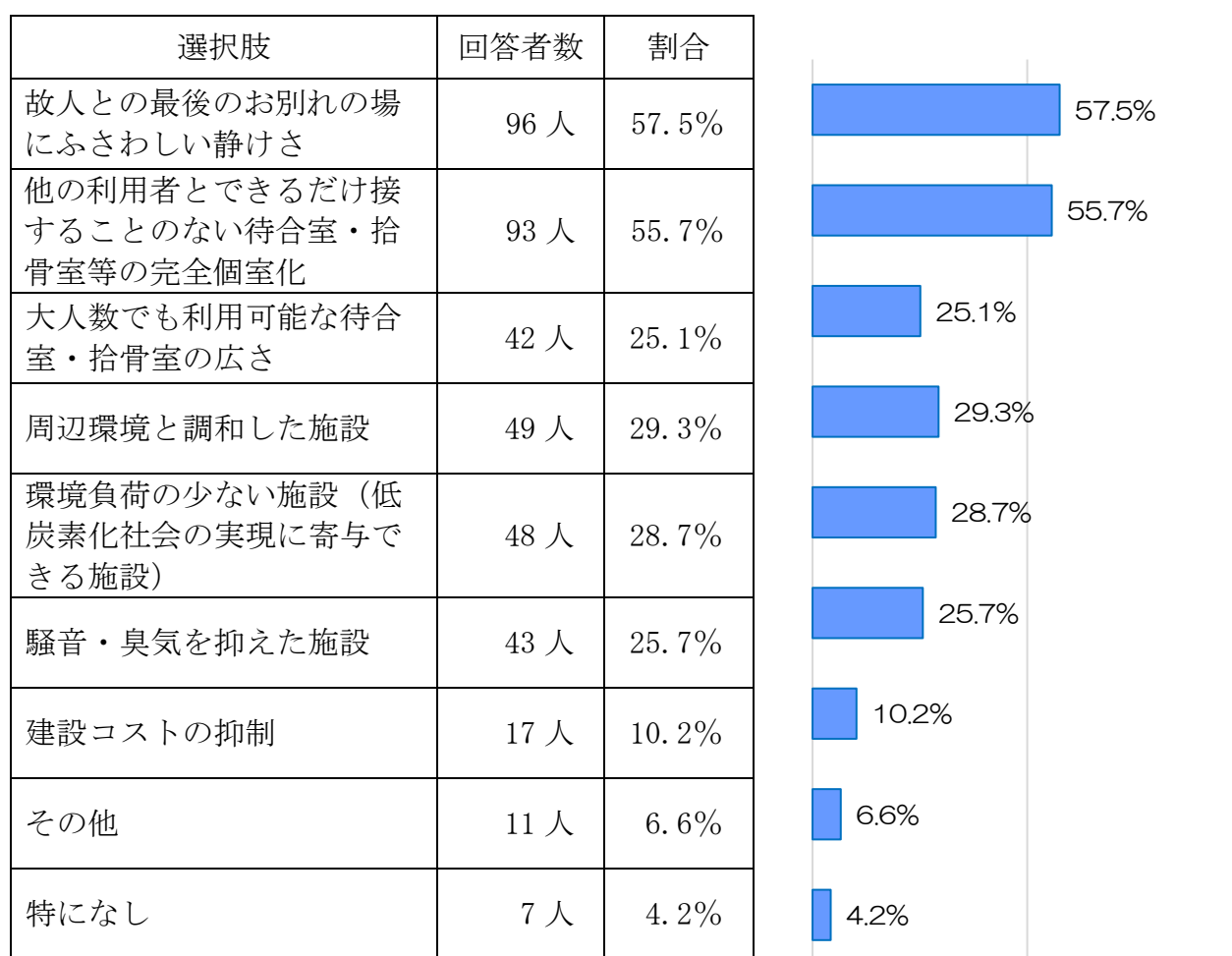
回答者数 = 76人 有効回答数 = 211

※「その他」の意見

- ・老朽化して無いとは言えないが、仕方がない事だと思う。
- ・開放感がないので気分が増々暗くなる。
- ・新しくしてほしい。
- ・待合室が入り込んでいて迷う。
- ・売店。

過去3年間にもみじ谷葬斎場を利用されたかたは、「施設が古い・老朽化している」「待合室等が狭い」と感じたかたの割合が高いことが分かりました。また、「待合室が狭い」と感じたかたは高年齢層で割合が高くなっていることから、年配の人ほどゆとりある施設を求められていると感じました。

問6 火葬場に求める点はどのような点ですか。(3つまで回答可)



(回答者数=167人 有効回答数=406 無回答:7人 無効回答:6人)

※「その他」の意見

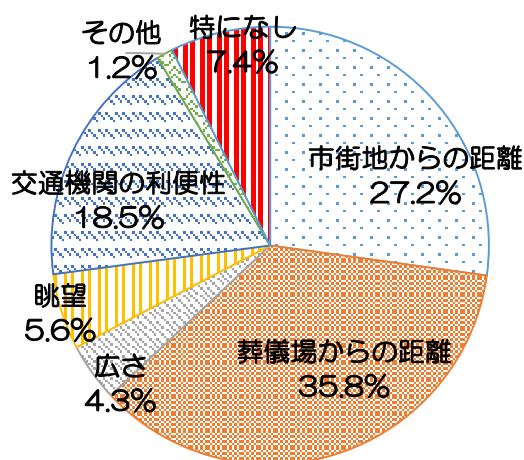
- ・火葬場のイメージが暗いので、火葬場近くの住民に対して、メリットのある施設であることを望む。

- ・ 現在、コロナ禍で人数制限や飲食の制限があるが、利用してみると、これで十分だと思われ、十分に満足した。
- ・ 1 部屋に畳とテーブルがあると嬉しいです。足の悪い年よりはテーブルがいりますが、ずっと座ってられない年寄りもいるから畳も欲しい。
- ・ お茶したり、軽い食事ができる店舗があればいい。
- ・ ゆったり落ち着ける待合室。
- ・ 完全バリアフリー化、多目的トイレ。
- ・ 故人との別れを悲しむだけではなく周りと思い出話ができる環境。
- ・ 散骨方法の多様化に対応した施設（風・海洋・拾骨・埋葬など）。
- ・ 畳部屋の設置。
- ・ 短時間で終わらせたい。
- ・ 福岡の火葬場へ行き驚きました。悲しみが癒される風景が各部屋から見え、気分が良くなりました。

火葬場に求める点についての設問については、「故人との最後のお別れの場にふさわしい静けさ」、「他の利用者とできるだけ接することのない待合室・拾骨室等の完全個室化」が多い結果となりましたが、このことは年代に関係のない傾向だということがうかがえました。

問7 火葬場の建設場所に最も重要視する点は何ですか。（当てはまるもの1つ回答）。

選択肢	回答者数	割合
市街地からの距離	44 人	27.2%
葬儀場からの距離	58 人	35.8%
広さ	7 人	4.3%
眺望	9 人	5.6%
交通機関の利便性	30 人	18.5%
その他	2 人	1.2%
特になし	12 人	7.4%
合計	162 人	100.0%

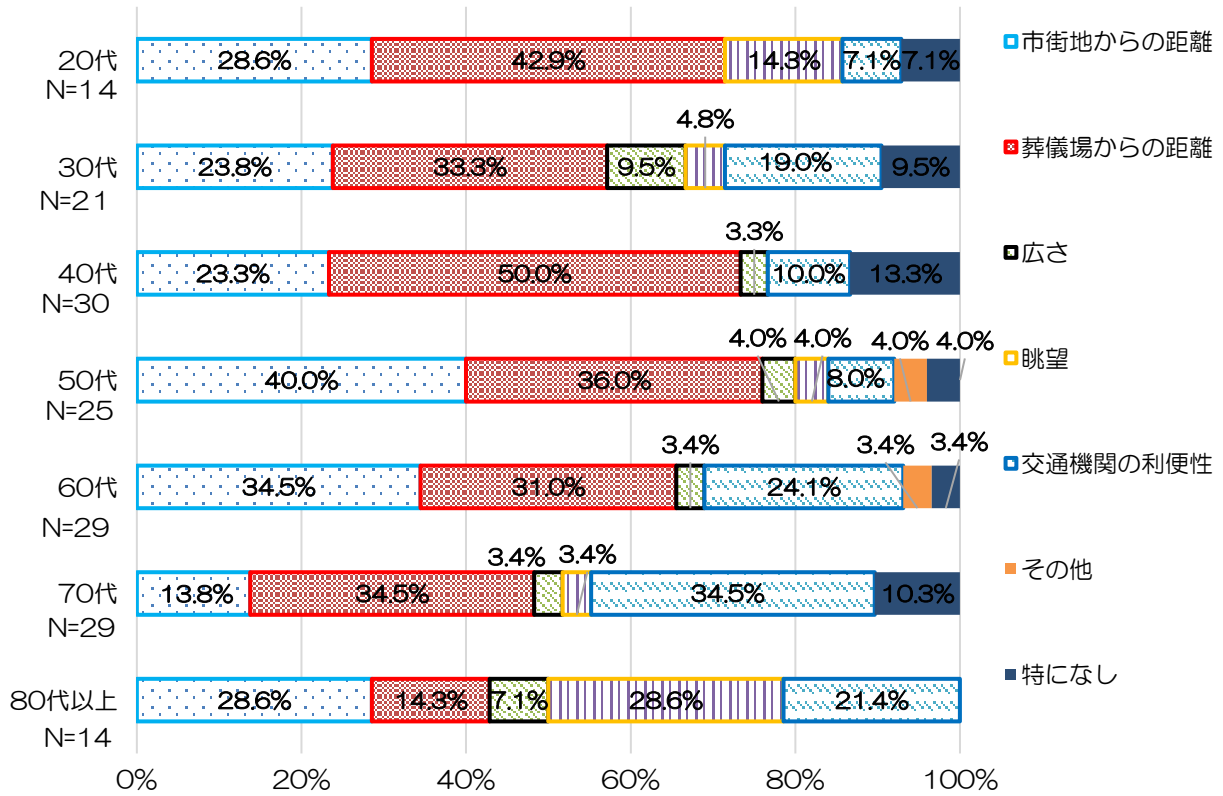


（無回答：9人、無効回答：9人）

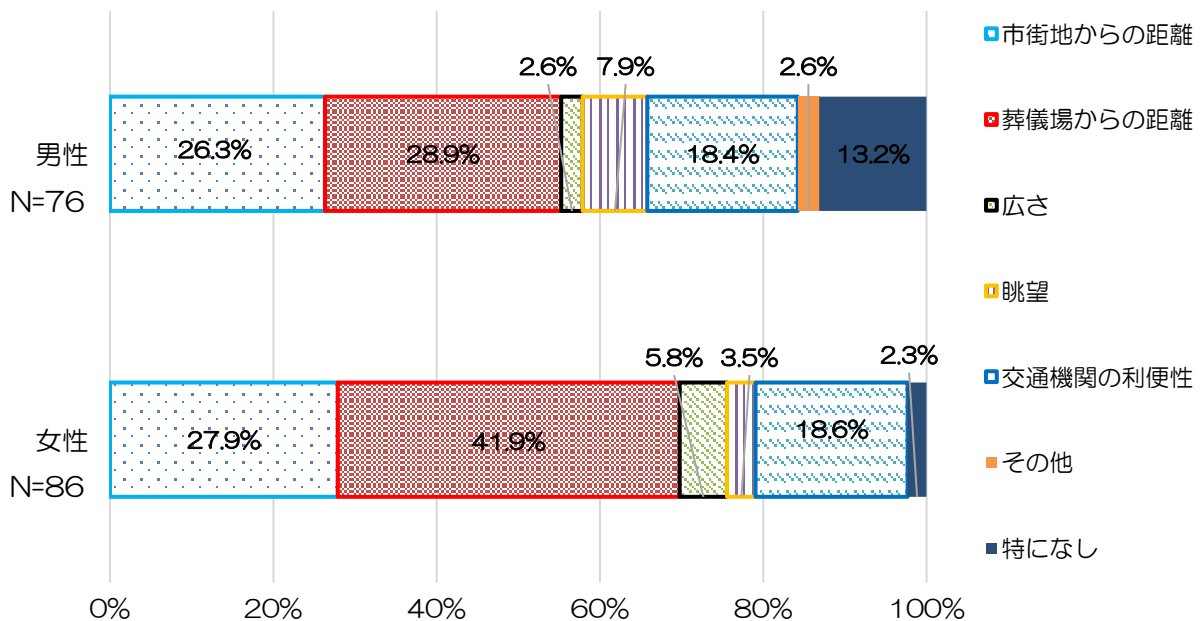
※「その他」の意見

- ・多少市街地から遠くても、周辺の住民や環境に影響を与えない場所が適当だと思う。
- ・静かな場所がよい。

〈年齢別割合〉



〈性別割合〉



火葬場の建設場所に最も重要視する点について今回の調査においては、「葬儀場からの距離」が最も多く、次に「市街地からの距離」、「交通の利便性」が多い結果となりました。このことから、火葬場を利用されるかたの多くは、火葬場への移動の利便性を求めていることがわかりました。

【火葬場に対する意見】

問8 その他火葬場についてのご意見があれば自由にご記入ください。

- ・ どんどん人口は少なくなっているのに、華美で豪華な施設などは望みません。
- ・ バリアフリーをなるべく取り入れてほしい。
- ・ 高齢者の親戚などの参加があるため、駐車場は近い方が良い。
- ・ もみじ谷に行ったことがないのでなんとも言えないが、火葬→納骨という一般的な方法から自然葬などと多様化しているとよくTVで見たり、店を見たりする。それらに対応した眺望や場所に対応した火葬場があっても良いのかなと感じる。
- ・ よく近所の人達の反対がありますね。よく説明会をしていずれば皆が使う場所ですから、皆に喜ばれる場所にして欲しいです。明るく、開放的でやさしさを感じられる場所であってほしいですね。
- ・ 火葬場への移動は車になるので、住宅地をさけることが大切で、少々の距離はやむをえない。
- ・ 火葬中の待合室がいろいろあるとは思いますが、手もちぶさたにならないよう（会話は別として）何かしらの配慮がほしい。
- ・ 環境汚染が気になります。
- ・ 近隣住民の理解。
- ・ 現在の駐車場は狭いと思います。
- ・ 故人との別れの場にふさわしい場所であり、へんぴな場所ではなく、清潔な所、地の利の良いところであってほしい。
- ・ 広い駐車場が欲しい。
- ・ 高齢者が行く場合が多いと思うので、車を降りてから歩く距離が遠いとキツイと思う。
- ・ 今まであまり利用することがなかったので特にありません。
- ・ 今までも特にと言った感じで、しいて言うなら問5のような気持ちです。
- ・ 山の中でいいかと。

- ・市の中心部近くで周辺環境との調和した施設。
- ・市街地からあまり遠くなくて、住宅や商業地に影響のない、そんな都合の良い場所があれば良いと思うのですが。
- ・市財政の健全性から限られた予算をより生産的で未来志向的な投資に向ける必要があります。火葬場に荘厳さを求めることは無駄です。癒しの場でもありません。個人に対する尊崇、別れ、哀しみはその遺された方々の個人の気持ちであり、公にその演出を求めるのはいかがでしょう。葬儀場にて別れは終わっています。
- ・住宅街ではなく、ひっそりとした回りに建物がない。駐車場が広い。時間待ちがないよう、十分な広さ。
- ・場所はおみじ谷で良いと思う。今のままでもそれほど不満はない。
- ・清潔感の高い施設。
- ・祖母の火葬の時に、娘はまだ10才位でしたが、祖母の骨を拾う前に、別の方の骨を拾っている家族の姿を見た（見えた）らしく、そのどなたかも知らない方のほうの印象が今でもはっきりと残っているといっていました。
- ・やはり個室であったほうが、プライバシーや感染拡大（コロナ）防止にもなるのではないかと思います。
- ・待っている時間が長いので、長崎の歴史とか写真とか展示スペースがあったらと思います。
- ・大きな駐車場のある静かな場所に建替えてもらいたい。
- ・大型化。
- ・駐車場から建物まで雨に濡れないようにしてほしい。お年寄りには階段がきついで、階段を使わなくてすむような造りにしてほしい。
- ・駐車場の数が少ない。
- ・超高齢化社会を迎えて、会葬者、弔問者も高齢化しています。
- ・バリアフリーや手すり、椅子などの気配りは必要だと思います。
- ・長崎で生まれ育ったので、火葬場はこちらしか利用したことがないので、比較しようがなく、分かりませんが、市街地から近くなので、利用は不便がないように思います。
- ・ただ故人をおくるのにふさわしいかと言われると、葬儀場から火葬場にきた時の雰囲気の違いがあるように感じます。
- ・長崎市内外の利用を外す。
- ・東京の高円寺の火葬場は JR 駅から徒歩数分の所にある。住宅地の中である。「火葬場は山」の必要はない。御参考までに。

- ・同じ場所に建て替えるのであれば、周囲の自然と合わせた建物にしてほしい。(木材を使う、排気塔を隠すなど)
- ・悲しみを和らげてくれるような外観・内装にしてほしい。
- ・頻繁に行くところではないけれど、多県の人がびっくりします。
- ・今の火葬場はとても冷たい雰囲気で悲しい。
- ・拾骨までの時間を豊かな気持ちで過ごしたい。
- ・平坦地で静かな場所、木々や花々が咲き乱れる場所を希望します。
- ・緑に囲まれた施設であってほしい。できれば。
- ・諫早市の火葬場を参考にしてほしい。
- ・少し離れていても良いと思う。

長崎市新火葬場整備基本構想

長崎市市民生活部もみじ谷葬斎場

〒852-8012 長崎市湍町 26 番 6 号

TEL 095-861-0298 FAX 095-861-0728

発行：令和4年9月
